

会議録

会議の名称	第5回 西東京市地域コミュニティ検討委員会
開催日時	平成26年2月24日（月曜日）午後6時30分～7時40分
開催場所	西東京市役所 田無庁舎 5階503会議室
出席者	委員：伊村委員（委員長）、伊藤委員（副委員長）、工藤委員、栗山委員、幸内委員、菅野委員、鶴野委員、土方委員、井手委員、志村委員、岡村委員、丸山委員、伊藤（光）委員 事務局：協働コミュニティ課長、協働コミュニティ課市民活動推進係長、協働コミュニティ課市民活動推進係主事、教育指導課、高齢者支援課、生活福祉課、危機管理室、株式会社エックス都市研究所
報告事項	1 （仮称）地域協議体・南部モデル地区会議（第3回会議）結果について 2 「地域コミュニティに関するシンポジウム」について 3 自治会・町内会 個人情報取扱の手引き及びパンフレットについて
議題	1 （仮称）地域協議体・南部モデル地区会議の今後の進め方について
会議資料の名称	資料 資料1-1 （仮称）地域協議体・南部モデル地区 第3回会議結果について 資料1-2 （仮称）地域協議体・南部モデル地区会議アンケート集計結果 資料2 自治会・町内会 個人情報取扱の手引き及びパンフレットの修正箇所について 資料3 自治会・町内会ガイドブック～個人情報取扱の手引き編～（案） 資料4 「個人情報の提供について」パンフレット（案） 資料5 （仮称）地域協議体・南部モデル地区会議の今後の進め方について 資料6 地域にあるコミュニティに関わる主な組織表（改定版） 地域コミュニティ・シンポジウム チラシ及びポスター 座席表
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>事務局：</p> <p>第5回西東京市地域コミュニティ検討委員会を開会する。まず、本日の議題を確認させていただく。</p> <p>議題の確認</p> <p>次に、資料の確認をさせていただく。</p> <p>会議資料の確認</p> <p>2 報告事項</p>	

委員長：

事務局より報告事項についての説明をお願いしたい。

報告事項（1）（仮称）地域協議体・南部モデル地区会議（第3回会議）結果について

事務局：

（仮称）地域協議体・南部モデル地区第3回の会議の報告をさせていただく。1月16日木曜日、19時から1時間40分かけて、実施した。参加者は17名である。小平市の市民生活部地域文化課コミュニティ係からも視察に訪れた。また、当委員会からも、数名の委員に会議に出席いただいた。

会議の内容について、防災ワークショップの振り返りを行った後、ワールド・カフェ方式をとり、3～4名のグループディスカッションを行った。テーマは、「地域活動とは」、「地域活動の難しさとは」、「地域課題解決に必要なものは何か」といったテーマで、メンバーの入れ替えを行いながら議論を行った。

各ディスカッションでは、「共助が重要である」、「地域とつながるきっかけづくり、コミュニケーションが重要である」、「コミュニティを支える組織には、多くの課題がある」、「コミュニティを支える組織の課題克服には、組織間連携が重要である」といった意見が出された。

また、当会議の後行ったアンケート集計の結果、地域協議体の目的を9割以上の方が理解を示し、地域協議体が役に立つと回答した人は100%という結果になった。

開催回数については、1年間に3回程度の開催は妥当かという問いに対し、ちょうどよいと回答された方が7割に上り、3割の方が少ないと回答された。少ないと回答された方のうちの8割の方が6回がよいと回答されている。会議参加人数はちょうどよいお答えいただいた方が8割以上に上り、地域協議体の地区の大きさについては、ちょうどよいとお答えいただいた方が7割に上った。

地区の大きさについて、大きいとお答えいただいた方からは、8区分、6区分、3～4区分程度、町単位などという意見をいただいた。

今後話し合いたいテーマについては、横のつながりを強くするにはどうしたらよいか、どうやったら地域住民が交流することができるかといったことを挙げる方がいらっしまった。

平成27年度に南部地域で本格的に設立する際に、参加したいとお答えいただいた割合は6割強となった。そのほか、自由意見では、温かい意見をいただいた。

ただ一方で、時間を多くした方がよいといった意見や夜ではなく、休日の昼間にしてほしいといった意見もいただいた。

次年度の地域協議体・南部モデル地区会議は、こうした意見を踏まえて様々な形で進め、27年度の本格的設立に向けて進めていきたいと思う。

委員長：

地域協議体のモデルということで、やってきているが、欠席者がいる。休みの方は、企業、学校、警察関係の方であり、こういう人たちの意見がアンケートには反映されていないことを考慮した上で、結果を見ていただきたい。アンケートにもあるように時間、曜日を変えてほしいという意見があったので、次年度以降、このあたりも考慮の上、進めて欲しい。

委員：

私もそう思う。高齢者もいるので、時間は考えた方がいい。

委員：

テーマについては、ある程度絞っていかないといけないのではないかと思います。防災がスタートのテーマになるのではないかという気がしている。できるだけ早く南部地区のモデルを進めていく必要があると思う。

○委員：

消防団の方もメンバーに入っていた方がいいと思う。もう少しテーマを絞ってけば、結論も早く出のかなと思う。

副委員長：

いろんな人たちがいて、いろいろな意見が出て、まとまりがつかないところがあったと思う。また、市の職員の方にももう少し参加いただけるとよいという気がした。

委員長

南部地区には消防団があるのか。

副委員長：

ある。

委員：

時間が不足しすぎる。もう少し時間が欲しい。3時間は欲しい。

委員長：

資料 1-1 にも示されているが、西東京市だけでなく、近隣の市町村も同じような課題がある。西東京市独自の課題と近隣の市町村が同じように抱える課題とを色分けしたほうがいい。

公助には期待しないという意見について、こうした意見が出たことはいいと思う。

委員：

西東京市にある 230 の自治会のほとんどが形骸化しているところが問題だと思う。なぜ形骸化したのかを探ることも重要ではないかと思う。

委員長：

次の報告に移りたいと思う。

報告事項 (2) 「地域コミュニティに関するシンポジウム」について

事務局：

地域コミュニティに関するシンポジウムを開催する。3月8日土曜日14時から、場所は西東京市民会館3階大会議室で開催する。

シンポジウムの内容は3部構成を考えている。第1部は、地域コミュニティの基本方針について、その内容について知っていただくことを考えている。第2部では、地域コミュニティの先進都市である調布市の職員の方と地元でまちづくりを進めている上ノ原まちづくりの会の方に来ていただいて、お話をお伺いすることを考えている。第3部では、市民の方に座談会に参加していただき、市民から見た地域のコミュニティについて意見を伺うことを考えている。

座談会に参加する市民の方は、防犯協会の丸山会長、南部地区の自治会・町内会である向栄会の室会長、保育園保護者連絡協議会の加藤会長、コミュニティサロン「仙人の家」の竹中さん、中町エリアで自治会を作ろうと活動されている大学2年生の小野さんにご参加いただき、地域活動を行う上での苦労談や活動内容などをお伺いして、今後の地域コミュニティの方向性を考えていきたいと思う。なお、この座談会のコーディネーターを当委員会の伊藤副委員長をお願いをしている。また、当日は、シンポジウムの後に当委員会を実施する予定である。

委員長：

コミュニティサロンの80代の方がいる一方で、自治会を作ろうとしている大学生がいるということで幅広い意見がうかがえると思う。事務局の報告について意見はあるか。

委員：

ポスターやチラシはどこに配布する予定か。

事務局：

公民館、コミュニティセンター、地区会館、などのコミュニティ施設に配布するほか、市報、ホームページなどでPRしている。

委員長：

全市的なPRは無理でも、南部地区だけ重点的にやってはどうか。

事務局：

各自治会・町内会にはチラシを配っている。

委員長：

電子媒体でもPRはするということで、一応やることはやったという理解でよいか。

今回調布市から来ていただく上ノ原まちづくりの会の地区は、南部地区と同じようなエリアなのか。エリアの特徴はどのような感じなのか。

事務局：

住宅地を中心としたエリアで、南部と似ているのではないかと思います。上ノ原まちづくりの会では、特色のある防災訓練を実施しているようで、参考になることも多いのではないかと思います。

委員長：

次の報告事項に移りたい。

報告事項 (3) 自治会・町内会 個人情報の取扱い手引き及びパンフレットについて

事務局：

個人情報の取扱いガイドブックについては、1月に委員の方から意見をいただき、その内容を踏まえて修正したものに、今回東京都の個人情報担当部署に内容をチェックいただき、さらに修正を加えている。

修正箇所は6点ある。それ以外の部分については、概ね了承を得ている。基本的にこれで作成を進めていきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

委員長：

都の専門のセクションに見てもらい、添削をしてもらったということである。内容自体は大きく変わらないということによいか。また、フォントや形式などはこれまで出されたものと併せているか。

事務局：

合せている。

委員長：

将来的に1冊にしていただければと思う。

#### **議題1 (仮称) 地域協議体・南部モデル地区会議の進め方について**

委員長：

まず、議題1について事務局から説明願ひたい。

事務局：

資料5、6について説明

委員長：

次回で結構だが、この委員会とこの地区の1年間のスケジュールを示していただければと思う。

この委員会では次の1年で何をやっていくのか、協議体との関係がわかるフローチャートを作っただきたい。

フィールドワークをやる場合、冬にやるわけにはいかないので、どのあたりでやるのかなど、検討しないといけないので、スケジュールを出していただきたいと思う。

事務局：

平成 25 年に季節の悪い時期に開催させていただいたが、次年度は、もう少し早い時期に開催をやっ  
ていきたいと思う。

委員：

南部地区にお声掛けしたが、いまいち反応が薄かったところはあるか。

事務局：

参加していただいたが、高等学校、企業、大学担当者など、1 回目のみで参加が途切れてしまった団  
体がある。住民の皆さんは熱心だが、働いてこの場に来ていただいた方は、仕事の関係もあり、なかな  
か継続的に参加していただくことが難しかったのではなかったと思う。今後そういう方々に継続的に会  
議に参加していただくことが課題となる。

委員長：

資料 6 でいうところのどの分野にお声掛けをしたのか。

事務局：

自治会・町内会は全部に声掛けをし、それ以外は、「組織」単位に声掛けをした。

委員長：

防災市民組織は声掛けをしていないのか。

事務局：

今回お声掛けはしていない。ただし、自治会・町内会と防災市民組織が重なっていることもあり、自  
治会・町内会兼防災市民組織という形で参加されている方もいらっしまった。

委員長：

消防団を入れるとしたらどこに入れるべきか。防災分野に入れた方がよいかもしれない。

副委員長：

消防団は、行政からの依頼などで会議に多く参加している。状況を見ながらお声掛けをしたほうがよ  
い。

委員長：

会議に出るかは別として、資料⑥に入れていただく方がよいかと思う。参加については、無理のない  
範囲で対応していただければと思う。ほかに意見はないか。

委員：

この会議の中で、南部のエリアが大きいという話は出ているが、そのあたりはどう考えるのか。

事務局：

事務局としては、アンケートにお答えいただいた結果を踏まえると、平成 25 年度で設定したエリアで実施していき、個別に事業をやっていく場合には、小学校区などの範囲に分けて実施するなど、協議体の中での話し合いを通じて、自主的にエリア設定してもらっていく方向でどうかと考えている。

委員長：

広いと思うが、モデルとしてやってみて、このエリアで協議体が成立するかどうか試していくというところだと思う。ただ、アンケートについては、ちょうどいいという意見が出ているが、これはあくまで参加された方だけの意見なので、そのあたりを勘案して検討を重ねるべきだと思う。

委員：

自治会・町内会から見れば、大きすぎるのではないかなと思うが、臨機応変に作っていけばよいかと思う。

委員長：

モデルとして実施する間は我慢していただき、ケーススタディを積んで、適切なエリアについて検討を重ねていくということになると思う。

ただし、地域の方は横のネットワークを求めている。特に包括支援センターの方は自治会と連携したいと思っているようである。いろいろなネットワークを作るのが、モデルの重要なポイントになると思う。

テーマについては、まず防災でやってみようということで、経験を積むうちに、今後、いろいろなテーマが出てくると思う。

委員：

各小学校区単位で避難所運営協議会を作っている。子どもの見守りも協議会ができています。そういう協議会と地域コミュニティに関する組織との連携、そのあたりをどう整理するかが大変だと思う。

委員長：

組織を整理することもこの委員会の大きな命題だと考えられる。そこは市の方にも理解いただきたい。

事務局：

協議体において、そうした点についても議論していただき、市に「組織の一本化をしてもらいたい」といった要望を出していただきたいと思いますと考えている。

委員長：

ほかに意見はないか。

委員：

防災に偏りすぎると、一本化に弊害があるのではないか。「将来は、こんないい街にしたい」という目標を打ち出していくことが重要なのではないか。防災組織を作るための協議体ではないと思う。

委員長：

「将来的な街の目標のために今、防災をやっている」といった点の説明が必要になると思う。防災に偏らない PR をしていただきたい。

#### 4. その他

事務局：

次回の検討委員会は、シンポジウムの終わった後に実施したいと考えている。